

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	46	大学等名	杏林大学
テーマ	テーマⅢ（高大接続）		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・取組学部である外国語学部のみならず総合政策学部にも取組が波及していること、アドバンスト・プレイスメントの全学的導入・実施、3つのポリシーの一体的策定、高大連携事業の全学的拡大など、事業が全学に拡大していることは評価できる。
- ・高大接続ラウンドテーブルの定期開催など高校側との定期的な意見交換の場の設定、高校生に対する大学レベルの教育の提供、高校との合同の研修、アドバンスト・プレイスメントの実施など、初年次教育及び初年次教育改革は着実に進捗している。また、ルーブリック・ポートフォリオの開発・試行を行っており、今後、グローバル人材育成推進事業で開発したルーブリック・ポートフォリオとの接続が期待され、評価できる。
- ・高大接続のテーマ上、高校との連携体制は欠かせないが、高大接続ラウンドテーブルの組織、「高校と大学をつなぐFD・SD」の開催の取組は評価できる。
- ・アドバンスト・プレイスメントの実施が1年遅れたが、高校関係者との意見交換の実施、高校生を対象とした大学レベルの教育機会の提供は着実に進捗している。また、学内の実施体制、専門人材の配置等から見ても事業の継続性が見込まれることも評価できる。
- ・アドバンスト・プレイスメントを自校志望の高校生だけを対象としないという趣旨から、ラウンドテーブルの開催や大学間単位互換協定の締結を進めていることは評価できる。

<改善を要する点>

- ・高校生を対象とした大学レベルの教育機会を経た学生の単位認定数など、必須指標及び大学任意の指標において達成度ゼロや低いものが見られる。そのため、申請時点でアドバンスト・プレイスメントの導入による高校生単位認定数を平成28年度目標60とした根拠を検証する必要がある。
- ・「高校と大学をつなぐFD・SD」の参加者数を高校側、大学側別に把握する必要がある。